

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21 年 3 月 11 日

【評価実施概要】

事業所番号	3670101611
法人名	医療法人 青志会
事業所名	ハートインライフ住吉
所在地	徳島県徳島市住吉2丁目9番地8 (電話) 088-602-4388

評価機関名	徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成 21 年 3 月 3 日

【情報提供票より】(平成 21 年 2 月 1 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 6 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	19 人	常勤: 11人、非常勤: 8人、常勤換算: 1F 8.83人 2F 4.71人	

(2) 建物概要

建物構造	木造造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階 部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,800 円	その他の経費(月額)	実費
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有の場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,000 円

(4) 利用者の概要 (平成 21 年 2 月 1 日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	2 名	要介護2	5 名		
要介護3	7 名	要介護4	2 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83.7 歳	最低 73 歳	最高	95 歳	

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	もりの医院
---------	-------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は市内東部の静かな住宅密集地の中にあり、保育所が隣接している。近くにはスーパーや商店が並び、専門の病院や総合病院、小学校、高校、大学もあり、日常生活のニーズを解決するためには大変便利な場所である。運営者と管理者は連絡を密にし、利用者の要望に耳を傾け、できる限り希望に応えられるよう努力している。また「利用者が一番」との考えのもとに介護に専念している管理者に職員が共鳴し共に歩んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)	前回評価での主な改善課題はない。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)	運営者、管理者、職員は評価の意義をよく理解し、自己評価に取り組んでいる。また全職員で過去の外部評価での結果を受け、全体を見直し、更なるサービスの向上について話し合い、理解し改善に取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)	運営推進会議は2か月に1回開催し、メンバーは利用者の家族、地域の有識者、地域包括支援センターの職員、運営責任者、管理者、職員等である。会議では利用者の暮らしぶりを含めた行事報告を行い、参加者の意見をもらっている。直近の会議では今回の外部評価についての周知を行っている。また、同法人内のグループホームと一緒に取り組んでいる「エコ」についても説明し、少しずつ環境に配慮した「エコ」を考える機会を持っている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)	玄関に設置されている意見箱は定期的に分けられ、食事のメニューについての意見に対しては、検討した結果、週一回のグループホームでの調理時にメニューに取り入れ、喜んでもらった。家族からの意見等に関しては内容によって、運営者も交えて検討し、できるだけ早期に解決し、運営推進会議で報告している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)	利用者の中に老人会に入会している方があり、情報を得て地域の行事や祭り等に参加している。秋にはホームで企画する「ほくほく祭り」で屋台を出店し、家族や近隣の方達を招待して交流を深めている。近隣の保育所の園児の来訪や地域の小学校の校外実習、介護実習の受け入れもしている。囲碁やレクリエーションなどのボランティアの来訪もあり、利用者は楽しんでる。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員は利用者が地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者や職員は法人・グループホームの理念を朝礼時に唱和したり、申し送り時に確認するなどして共有し、挨拶・笑顔を忘れずに実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	利用者で町内会に入会している方もあり、また町内会長が運営推進会議のメンバーである等により、町内での行事他の情報がもらえ、地域の行事に参加したり、ホームの行事に地域の方を招待し交流している。地元の小学生、近隣の保育所の園児、介護実習生等がよく来訪している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者、職員は評価の意義をよく理解し、自己評価に取り組んでいる。また全職員で過去の外部評価での結果を受けて全体を見直し、更なるサービスの向上について話し合い、理解し改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に1回開催し、メンバーは利用者の家族、地域の有識者、地域包括支援センターの職員、運営責任者、管理者、職員等である。会議では利用者の暮らしぶりを含めた行事報告を行い、参加者の意見をもらっている。直近の会議では今回の外部評価についての周知を行っている。また、同法人内のグループホームと一緒に取り組んでいる「エコ」についても説明し、少しずつ環境に配慮した「エコ」を考える機会を持っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営者・管理者は市町村へ出かけて相談したり、適宜指導や助言を受けている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時等に利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、見直した介護計画等を説明し、了解を得ている。また、遠方等で面会の少ない家族には年に4回発行する「まごころ通信」に写真を添えて金銭管理状況と併せて個々に報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの要望等は面会時などにさりげなく聞いたり、意見箱で把握したりしている。出された苦情等はよく検討し、運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は最小限に留めている。離職等の場合は、利用者の混乱をできる限り少なくするよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員を段階に応じて育成するため、研修は年間計画を立てて参加を勧めている。研修に参加する機会は、公平になるよう配慮している。受講者は報告書を作成し、全ての職員に伝わるよう3回に渡って報告し、周知している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人のグループホームがグループホーム協会徳島県支部に加入しており、その情報を共有して研修会や同業者との意見交換の機会を得ている。また独自に同業者に働きかけ、相互訪問等を通して、サービスの質の向上に繋げている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に見学してもらったり、また職員が自宅や病院等へ訪問したりすることにより馴染みの関係を築いている。また入居後は家族に泊まってもらうなどして利用者の不安を少なくし、徐々にホームでの生活に馴染めるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者を一人のかけがえのない人として受け入れ、希望や好みを把握し、心身の状態に配慮しながら、梅干し作りや正月飾り、畑仕事等共に行い、生活するなかで学び、支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	詳細なアセスメント手法の一部を取り入れ、生活歴の中から趣味や思いの把握に努めている。また言葉で表せない場合は、利用者のわずかなサインを見逃さず、家族からも情報を得るなどして本人本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族の希望を聞き、主治医や職員間の意見を交えて話し合い、本人に適した介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は毎月評価を行い、期間に応じて見直している。心身の状態等の変化や本人、家族からの申し出がある場合は適時見直して計画の変更を行い、家族に説明し同意を得ている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制や認知症対応型通所介護、短期利用型共同生活介護など多機能性を活かした柔軟な支援を行っている。また利用者や家族の要望により、受診時の送迎などを行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族が希望するかかりつけ医と協力関係を築き、適切な医療が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方については、利用者の状態等に応じて家族や主治医等とその都度話し合い、方針や対応を全員に周知し共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを考え、言葉かけには常に注意している。記録にはイニシャルを用いるなど適切に管理している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの好みや希望を聞き、外出先や行事内容を決めている。毎日のレクリエーションもできる限り利用者の希望にそえるよう配慮している。家族と相談し、暮会所まで送迎するなど、その人らしい暮らしが継続できるよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	週に1度の食事作りの日と朝食は、利用者の力に応じて職員と一緒に買い物や準備、調理、食事、片づけを行っている。食事作りの日には利用者の嗜好を取り入れるなど、楽しめるよう配慮している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は利用者の希望に応じて毎日入れる体制となっている。季節によって、菖蒲湯やゆず湯等を楽しんでいる。また、時々併設の施設の広い浴室で入浴を楽しめるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴や力を考慮し、米研ぎや畑仕事、清掃の役割を持ってもらったり、買い物や囲碁、絵を描くことを楽しんでもらうなど、気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩やドライブ、また基会所に出かける方もいるなど、希望に応じた外出を支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	開設当初から日中は施錠していない。職員は常に利用者の行動を意識し、見守っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時の避難訓練は年に2回、定期的に行っている。運営推進会議では地域の方達を交え、避難場所や方法、問題点等を検討している。連絡網やマニュアル等は整備されており、県立防災センターへも利用者と共に見学に行き、意識を高めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医師や栄養士、職員等が利用者一人ひとりの栄養・必要な水分摂取量を把握し、適切に確保できているかを確認している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下やホールには随所に花が生けられ、廊下の壁には行事の写真や利用者の作品の絵画が掛けられている。またおひな様を飾り、行事食と併せて季節感のある暮らしを支援している。共用空間は採光も良く、不快な音もなく居心地よく過ごせるよう工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には今まで家庭で使い慣れた家具や趣味の道具などが持ち込まれ、落ち着きを感じられる。ベッドや畳に布団など、一人ひとりの生活習慣を大切に支援を行っている。事業所はエコを重視し、EM菌を使ってトイレや居室の清掃、消臭等を行い、居心地よく過ごせるよう工夫している。		